

研究構想図

学校経営方針 <ul style="list-style-type: none">・児童が笑顔で生き生きと学ぶ学校・教職員がやりがいをもって働く学校・保護者が通わせてよかったと思える学校・地域とともに歩む学校	学校教育目標 <ul style="list-style-type: none">・たくましい子・あかるい子・かんがえる子・やさしい子	児童の実態 <p>○児童自ら主体的に学ぶ姿が増えてきた。</p> <p>○生活・総合で探究的な課題を追究したことにより、児童自ら学習を選択したり、計画したりして学習を進めることができるようになった。</p> <p>△調べる手段がICTに頼って学習する傾向がある。</p>
--	---	--

研究主題

自ら課題を見だし解決しようとする児童の育成
～子供の思いや願いを引き出し、広げ、つなげる授業を目指して～

目指す子供像 <ul style="list-style-type: none">①自分事として考えられる。②他者と関わり、そのよさを生かせる。③多様な見方、考え方を働かせられる。	目指す授業像 <ul style="list-style-type: none">①体験的活動の充実②身近な人や物事とのかかわりの重視③多様な情報の収集・吟味・実践
---	---

研究テーマ設定の理由

本校では、一昨年度より、生活科、総合的な学習の時間を柱として「自らすすんで学ぶ児童の育成」を目指し、研究を行っている。昨年度は、児童の思考に沿って教師が柔軟に指導計画を立て、児童自らが学習を選択することができた。しかし、系統性を意識した話し合い活動、一単位時間での学びを振り返る活動を充実させるまでには至らなかった。

今年度は、これまでの2年間で培ってきた研究内容を継続すると共に、話し合い活動、振り返り活動の2点について充実させていく。特に、低・中・高学年の各段階において身に付けるべき力を明確にし、児童が学習に関する自己調整を行いながら、粘り強く知識技能を獲得したり、思考・判断・表現しようとしていたりしているかどうかという意図的な側面を捉えて評価を行いながら授業改善を進める。

研究内容

低学年・生活科 <ul style="list-style-type: none">①思いや願いが生まれる対象を吟味し、出会いを工夫する。②体験的な活動で発見したことや気づいたことを多様に表現し伝え合う活動を通して気づきを深める。③自ら意欲的に学べる環境の構成を工夫する。④カリキュラム・マネジメントに取り組む。	中学年・総合 <ul style="list-style-type: none">①身近な課題に目を向け、友達と協働しながら地域の人と関わって解決できる単元を開発する。②自ら考え、伝え合い、解決方法を見い出せるように、話し合い活動や振り返り活動の充実を図る。③考える技法を増やし、必要に応じて選択できるようにする。④カリキュラム・マネジメントに取り組む。	高学年・総合 <ul style="list-style-type: none">①世界や社会の課題に関心をもち、自分事として課題解決に取り組むことができる単元を開発する。②自己の課題解決のための技法や解決方法を活用する。③考える技法を自己の課題に応じて選択できるようにする。④カリキュラム・マネジメントに取り組む。	4くみ・生活単元 <ul style="list-style-type: none">①友達の発言に興味をもったり、耳を傾けたりして、自分の考えを深めようとしている。②振り返りを通して、その時間の自分自身の成長に気付いたり、解決に近づいたことを実感したりして、自己肯定感を高める。
--	---	--	--

研究仮説

児童の学びに火を点ける手立てを工夫し、話し合い活動・振り返り活動を充実させることで、自ら課題を見だし解決しようとする児童の育成を実現できるであろう。

研究のまとめ

- ① 授業実践を通しての分析
- ② 子供の変容の見取り（教師の見取り方・子供へのアンケート）
- ③ 指導の手立ての具体化や有効性の確認（教師へのアンケート）
- ④ 総合の年間指導計画（令和6年度用）の作成
- ⑤ 各学年の総合を中心としたカリキュラム・マネジメント